

公益社団法人都市住宅学会関東支部・2013 年度総会

日時：2012 年 4 月 24 日(水) 15:30～16:00

場所：千代田区富士見 2-7-2

ステージビルディング 7 階

議 事 次 第

1 開 会

2 関東支部長挨拶

3 審議事項

第 1 号議案	2012 年度事業報告（案）について	…………	2
第 2 号議案	2012 年度収支決算（案）について	…………	7
第 3 号議案	2013 年度事業計画（案）について	…………	11
第 4 号議案	2013 年度収支予算（案）について	…………	15

4 その他事項

5 閉 会

2012 年度事業報告（案）

（2012 年 4 月 1 日より 2013 年 3 月 31 日まで）

1. 会員総数（2013年3月31日現在）：691名（うち権利停止者35名）

2. 総会開催

2012度総会を次の通り開催した。

日時：2012年4月27日（金） 15:30～16:30

場所：ステージビルディング 7 F 会議室（東京都千代田区富士見 2-7-2）

議事事項：第 1 号議案 2011年度事業報告（案）について

第 2 号議案 2011年度収支決算（案）について

第 3 号議案 2012年度事業計画（案）について

第 4 号議案 2012度収支予算（案）について

第 5 号議案 2012年度・2013年度支部役員について

3. 常議員会開催

(1) 第 1 回常議員会 2012年 4 月 6 日（金）

(2) 第 2 回常議員会 2012 年 7 月 20 日（金）

(3) 第 3 回常議員会 2012 年 10 月 16 日（金）

(4) 第 4 回常議員会 2013 年 1 月 28 日（月）

場所：千代田区富士見 2-7-2 ステージビルディング 7 階会議室

4. 講演会等の開催

(1) 公開シンポジウム 計 2回開催

(2) 仮設市街地研究小委員会 計 1回開催

(3) 郊外住宅地研究小委員会 計 2回開催

(4) 地域コミュニティ住宅計画研究小委員会 計 2回開催

5. 学際的学術研究の推進

・公開シンポジウム

『超高齢社会を見据えた Aging in Place の実現をめざす

～柏市・UR都市機構・東京大学の連携による長寿社会のまちづくり～』

日時：2012年4月27日（金）16:15～

場所：ステージビルディング 7 F 会議室

講演者：木村 清一 氏（東京大学高齢社会総合研究機構 学術支援専門職員）

参加者：24 名

第 1 号議案

- ・第 1 回 仮設市街地研究小委員会

日時：2012 年 4 月 2 日

- ・今後の陸前高田市・長洞仮設集落（長洞元気村）の復興支援のあり方等について検討

- ・第 2 回 仮設市街地研究小委員会（陸前高田市、大槌町 現地支援）

日時：2012 年 4 月 6～9 日

- ・陸前高田市復興局ほかとの高台移転に関する意見交換、長洞元気村復興懇談会、長洞・只出集落合同復興会議、唐桑鮎立漁港における番屋の現地調査
- ・大槌町 5 漁港の関係者、町当局との漁村集落の復興（漁村集落防災機能強化事業＝水産庁所管）に関する話し合い
- ・釜石市及び気仙沼市の復興商店街など視察

- ・第 3 回 研究会仮設市街地研究小委員会（陸前高田市 長洞元気村）

日時：2012 年 5 月 20～22 日

- ・高台移転に関する市当局との折衝及び長洞元気村住民との話し合い

- ・第 1 回 郊外戸建住宅地研究小委員会

日時：2012 年 6 月 1 日（金）18：30～ 場所：相模女子大学 稲田研究室

「高度経済成長期の計画的郊外戸建住宅地における居住実態

—伊勢原市愛甲原住宅・あかね台住宅の場合—

（伊勢原市の郊外戸建住宅地の研究 2～3 事例の紹介）

- ・第 4 回 仮設市街地研究小委員会（陸前高田市 長洞元気村）

日時：2012 年 6 月 15～17 日

- ・高台移転に関する市当局との意見交換
- ・長洞元気村住民との話し合い（復興公営住宅の計画などについて）
- ・長洞元気村住民の建築相談への対応

- ・第 5 回 仮設市街地研究小委員会（陸前高田市出張 長洞元気村）

日時：2012 年 7 月 13～16 日

- ・高台移転に関する市当局との意見交換
- ・番屋計画敷地の測量

- ・第 2 回 郊外戸建住宅地研究小委員会

日時：2012 年 9 月 21 日（金）18：30～20：30 場所：湘北短期大学

テーマ：「都市部における賃貸併用住宅に関する研究」

世田谷区奥沢周辺の資産運用型住宅建設の実態とその後について

参加者：研究会メンバー

- ・第 1 回 地域コミュニティ住宅計画研究小委員会（公開研究会）

第 1 号議案

日時:2012 年 10 月 24 日(水)16:00～17:50 場所:ステージビルディング会議室
テーマ:東日本復興の方針、仮居住の経過と展望:宮城県・仙台市
報告:(1)宇杉和夫(西安交通大学) 主旨説明:避難・仮居住と復興計画の課題
(2)三浦俊徳(宮城県) 宮城県の仮居住の経過
(3)米野史健(建築研究所)仙台市の借り上げ仮設住宅の経過
(4)鈴木孝男(宮城大学) 宮城県の復興計画の経過・現状
参加者:21 名

・第 2 回 地域コミュニティ住宅計画研究小委員会(幹事会)

日時:2012 年 11 月 9 日(金)10:30～12:00 場所:日本女子大学目白キャンパス百年館 12 階
・情報収集公開システムについて(研究会運営について)
・避難・仮居住移動経過全体把握と地域支援システムについて
・次回以降公開研究会の企画テーマについて(岩手県ほか)

・第 3 回 郊外戸建住宅地研究小委員会(公開研究会)

日時:2012 年 12 月 6 日(木)18:00～21:00 場所:多摩 NT 福祉亭
テーマ:高齢者の居場所としての「永山福祉亭」
講師:NPO 法人永山福祉亭 理事 寺田美恵子
参加者:13 名(研究会メンバー 大妻女子大学学生 NPO 法人風の丘 ほか)

・第 3 回 地域コミュニティ住宅計画研究小委員会(公開研究会)

・第 6 回 仮設市街地研究小委員会(公開研究会)

日時:2012 年 12 月 19 日(水)16:00～19:00 会場:ステージビルディング会議室
テーマ:東日本復興の目標と方法:仮居住から復興住宅計画への展望(岩手県、盛岡市)
報告:(1)小野寺正徳(岩手県復興局生活再建課)「避難・仮居住の現状と課題」
(2)加藤 勝(盛岡市東日本大震災復興推進・放射能対策本部)
「盛岡市における仮居住支援の経過」
(3)大水敏弘(国土交通省都市局市街地整備課企画専門官)
「避難・仮居住から復興計画への課題」
参加者:21 名

・第 4 回 郊外戸建住宅地研究小委員会(公開研究会)

日時:2013 年 3 月 13 日(水)16:30～18:30 場所:大妻女子大学社会情報学部棟 4 階ゼミ室
テーマ:多摩ニュータウンにおける高齢者の継続居住について
講師:松本真澄氏(首都大学東京 都市環境学部 助教)
参加者:16 名

・都市住宅学会 20 周年記念 公開シンポジウム

「東日本大震災における仮設住宅の在り方を考える」
主催:社団法人都市住宅学会 東北支部・関東支部

企画担当:東日本大震災復興住政策特別研究委員会

関東支部仮設住宅地研究小委員会(第7回)(公開研究会)

関東支部地域コミュニティ住宅計画研究小委員会(第4回)(公開研究会)

日時:2013年4月2日(火) 17:30~21:15

会場:ステージビルディング 7階 会議室(東京 飯田橋)

プログラム:

- ・あいさつ(高田光雄/京都大学)
- ・解題 (大月敏雄/東京大学)
- ・報告 復興の中の仮住居・仮設住宅の課題(宇杉和夫/西安交通大学)
仮設住宅を巡るまちづくりの現状(小泉秀樹/東京大学)
仮設住宅と福祉の連携(富安亮輔/東京大学)
仮設住宅で日常を取り戻す展望(新井信幸/東北工業大学)
- ・討議 (司会:森反章夫/東京経済大学)

参加者:38名

都市住宅学会設立20周年記念連続シンポジウム企画

東日本大震災における 仮設住宅の在り方を考える

2013年4月2日(火) 17:30~20:30
(開場 17:00 予定)

内容
<あいさつ> 高田光雄(京都大学)
<解題> 大月敏雄(東京大学)
<報告>
「復興の中の仮住居・仮設住宅の課題」宇杉和夫(西安交通大学)
「仮設住宅をめぐるまちづくりの現状」小泉秀樹(東京大学)
「仮設住宅と福祉の連携」 富安亮輔(東京大学)
「仮設住宅で日常を取り戻す展望」 新井信幸(東北工業大学)
<討議> 司会:森反章夫(東京経済大学)

主催:都市住宅学会関東支部・東北支部
企画担当:東日本大震災復興住政策特別研究委員会
関東支部仮設住宅地研究小委員会
関東支部地域コミュニティ住宅計画研究小委員会

日時:2013年4月2日(火) 17:30~20:30 (開場 17:00 予定)
場所:都市住宅学会会議室(千代田区富士見2-7-2 ステージビルディング7F)
参加費:無料
問合せ先:社団法人 都市住宅学会 事務局(月~金:10:00~18:00)
〒102-0071 東京都千代田区富士見2-7-2 ステージビルディング7F
Tel:03-5211-0597 / Fax:03-5211-0598 / E-mail:t-info@uhs.gr.jp

第1号議案

2013年3月6日 13:00～18:00

場所: 日本大学経済学部

応募数: 卒業論文1編、修士論文13編

受賞作: 卒業論文 奨励賞1編

: 修士論文 最優秀賞2編、優秀賞3編、奨励賞2編

参加者: 計27名

7. 見学会(関東)

日時: 2012年10月18日(木) 13:30～16:00

場所: UR 多摩平の森団地再生事業 見学会

参加者: 19名

8. 第17回交流研究会「韓国視察」

期間: 2013年3月28日(木) から 3月31日(日) 3泊4日間

訪問先: 韓国 世宗市、ソウル市ほか

参加者: 16名

3/28(木)	各地発 ソウルへ 成田発 9名 関空発 6名 福岡発 1名 現地着後、自由行動
3/29(金)	世宗市(行政複合都市)視察 (高田会長合流) ・行政中心複合都市建設庁展示館訪問 行政中心複合都市の全体計画等 ・展望台より新都市建設過程俯瞰 ・国土海洋部住宅政策課訪問 韓国の住宅政策についての説明と質疑 韓国住居学会との懇親会
3/30(土)	ソウル市視察(sh 公社開発プロジェクト) ・上岩 Digital Media City ・ゴミ埋め立て地の公園への改修現地視察 ・マゴック地区における新都市開発 ・恩平ニュータウン訪問、現地視察 休戦線(DMZ)付近 臨津閣(イムジンガック)訪問 ・南北分断に関連した現代アート等を取り入れた展示の視察)
3/31(日)	ソウル市永登浦区文来洞 現地視察 (旧道林町住宅営団モデル住宅地及び旧鐘紡社宅地) ・歴史的経緯と現状 (漢陽大学校建築学部 富井正憲教授より) 各地に向け帰国

第2号議案 2012年度収支決算案

2012年度社団法人都市住宅学会関東支部・収支決算書(案)

2012年4月1日から2013年3月31日まで

【収入の部】

(単位:円)

科 目	予算額	決算額	予算－決算	摘要
支部交付金	1,121,443	1,121,443	0	
雑収入	50,000	285	49,715	
受取利息	0	285	△ 285	
雑収入	50,000	0	50,000	
当期収入合計(A)	1,171,443	1,121,728	49,715	
前期繰越金	1,060,147	1,060,147	0	
収入合計(B)	2,231,590	2,181,875	49,715	

【支出の部】

(単位:円)

科 目	予算額	決算額	予算－決算	摘要
給与・賃金	500,000	500,000	0	
研究会費	360,000	195,720	164,280	
会議費	60,000	59,048	952	
通信・連絡費	20,000	3,710	16,290	
消耗品費	0	0	0	
印刷製本費	0	0	0	
交流研究会費	200,000	191,000	9,000	
シンポジウム費	300,000	192,751	107,249	
雑費	10,000	6,293	3,707	
当期支出合計(C)	1,450,000	1,148,522	301,478	
当期収支差額(A)－(C)	△ 278,557	△ 26,794	△ 251,763	
次期繰越金(B)－(C)	781,590	1,033,353	△ 251,763	

◆2012年度都市住宅学会関東支部決算報告の監査結果について◆

社団法人都市住宅学会関東支部支部規則第7条、第4項に基づき、
2012年度都市住宅学会関東支部決算報告関係書類を監査した結果、支障ないことを報告します。

2013年4月23日

社団法人 都市住宅学会 関東支部

会計監査

杉本 茂



会計監査

中城 康彦



第2号議案 2012年度収支決算案

社団法人都市住宅学会関東支部・貸借対照表(案)

2013年3月31日現在

(単位:円)

科 目	金 額		
I 資産の部			
1 流動資産			
現金預金	1,232,353		
流動資産合計	1,232,353	1,232,353	
2 固定資産			
支部研究基金	2,016,470		
固定資産合計	2,016,470	2,016,470	
資産合計	3,248,823		3,248,823
II 負債の部			
1 流動負債			
未払金	199,000		
流動負債合計	199,000	199,000	
負債合計	199,000		199,000
III 正味財産の部			
正味財産	3,049,823		3,049,823
(うち当期正味財産増加額)	(-26,389)		(△ 26,389)
負債及び正味財産合計	3,248,823		3,248,823

第2号議案 2012年度収支決算案

正味財産増減計算書

2012年4月1日から2013年3月31日まで

(単位:円)

科目		
I 増加の部		
1資産増加額		
当期収支差額		
棚卸資産増加額		
運営基金増加額		
2負債減少額		
増加額合計		0
II 減少の部		
1資産減少額		
当期収支差額		26,389
棚卸資産減少額		
運営基金減少額		
2負債増加額		
減少額合計		26,389
当期正味財産増加額		-26,389
前期繰越正味財産額		3,076,212
期末正味財産合計額		3,049,823

第2号議案 2012年度収支決算案

財 産 目 録
2013年3月31日現在

(単位:円)

科目		
I 資産の部		
1流動資産		
現金		53,006
普通預金	三菱東京UFJ銀行麹町支店	1,179,347
流動資産合計		1,232,353
2固定資産		
基本財産		
保証金		
運営基金	三菱東京UFJ銀行麹町支店	2,016,470
固定資産合計		2,016,470
資産合計		3,248,823
II 負債の部		
1流動負債		
未払金		199,000
前受金		
預かり金		
仮受金		
流動負債合計		199,000
負債合計		199,000
正味財産		3,049,823

2013年度事業計画(案)

1. 学際的学術研究の推進

研究小委員会の設置等により、学際的学術研究を推進する。

- 1) 仮設市街地研究小委員会
- 2) 郊外戸建住宅地研究小委員会
- 3) 地域コミュニティ住宅計画研究小委員会

2. シンポジウム、セミナー、交流研究会、見学会等の開催

支部会員の交流を通じ、学際的学術研究分野としての都市住宅学を構築することを目的として、シンポジウム、セミナー、交流研究会、見学会等を開催する。

3. 関係学会・協会との交流

支部レベルにおける関係学会・協会との交流を推進する。

「仮設市街地研究小委員会」2013年度活動計画

テーマ：仮設市街地運営と復興協議

■研究概要：現在、復興への行程が制度的にも不分明なままであり、地域間での復興格差が拡大しつつある。そうした状況の全域的な把握と個別地域での復興協議状況の把握をおこなうこととする。東北支部 新井信幸氏（東北工業大学）とも連携をはかりながら研究を進める。

■研究期間：2013年5月1日～2014年3月30日

■研究メンバー：

主査 森反章夫
幹事 濱田甚三郎
委員 小泉秀樹 大月敏雄

■研究事項（活動計画）：

1. 各被災県ごとに、生活相談員などの仮設支援員の活動実態を含め、どのように復興協議の支援策が展開しているのかについて検討する。
2. 集会所などの施設の活用実態、仮設住宅地での新たな住民組織の復興協議の実態などについて、検討する。
3. 仮設住宅地での、被災地区の復興協議を進めるにあたっての問題点を把握する。

■結果のまとめの予定（情報発信）：

復興にあたっての問題点と解決策の提言をおこなう。
同時に、この研究会を参加自由とし、広く都市住宅学会会員に開放することとする。

「郊外戸建住宅地研究会」2013年度活動計画

テーマ：高度成長期の計画的郊外戸建住宅地における居住実態と持続可能性

■研究概要：大都市郊外の高度経済成長期に開発された計画的戸建住宅地では、居住者の年齢層の偏りや住替えの停滞等から、人口減少と高齢化が急速に進行しつつある。

神奈川県内でも、高度成長期の民間による計画的郊外戸建住宅地は、良好な居住環境を有し、大手企業のサラリーマン層が居住する比較的高級な住宅地として、知られてきた。しかしながら、開発当初の居住者層が高齢化し、次世代の世帯分離による転出で、高齢者のみの世帯が増加し、空き地・空き家が増えつつある住宅地もある。

昨年度の成果を踏まえ、居住者の高齢化による居住環境上の問題のうち、持続可能な住宅地の課題（買い物・交通等日常生活の利便性、居住者間の交流・コミュニティの再生等）に対しての居住者の取り組みに注目し、住み続けるための共助のしくみ、地域主体のエリアマネジメントの可能性について探ることを目的とする。

■研究期間：2013年4月1日～2014年3月31日

■研究メンバー：

主査：松本暢子（大妻女子大学）

第3号議案資料

幹事：加藤仁美（東海大学）

委員：大家亮子（成城大学）、大橋寿美子（湘北短期大学）

オブザーバー 稲田深智子（相模女子大学）

■研究事項（活動計画）

昨年度の成果を踏まえ、第一に NPO 風の丘のコミュニティカフェの活動支援を行いながら、その可能性や課題を明らかにする。また、地域でのとりくみ事例を収集し、その評価を行いたい。3 か月に 1 回程度の研究会において情報交換および検討を行う。

- 1) NPO 風の丘のコミュニティカフェの活動支援
- 2) 生活支援を行っているとりくみ事例の収集・評価
- 3) 生活支援ニーズの検討
- 4) 高齢者福祉施設利用者（デイケア・小規模多機能型施設等）のニーズの検討
- 5) 行政施策（高齢者福祉ネットワーク、住宅政策等）等の把握

■結果のまとめの予定（情報発信）

各自による学会等への論文投稿等

公開研究会の開催

「地域コミュニティ住宅計画研究小委員会」 2013 年度活動計画

テーマ：「仮居住」の現状・計画と復興計画

■研究概要：東日本大震災は未経験の国土復旧復興課題を提示している。居住空間計画はその中心的課題であるが、その全体的フレームが形成も合意もされていない。それは現在までの住宅計画が同時代人の需要と問題を解決するためのものであり、次世代次世紀に向けた長期課題（環境・津波等）に対応していないこと、次には放射能汚染被災避難という未経験の課題がある。ここに応急仮設住宅から復興住宅建設入居という既成の単純な震災復興のプログラムでは対応できない現実がある。本研究ではその全体像・フレームの構築が課題であることの認識を重視するが、第一には被災・非難・仮居住・仮設住宅等の居住経過、およびそのコミュニティ持続性の全体的把握がなされていないことを最大の問題とする。現在は被災救助から仮設住宅居住等への転換後にあたり、ようやくにしてこの課題に取り組む認識と状況が始まりつつあるが、その目標の議論も必要とされている。困難な課題は多いが、本研究ではその目標を「地域コミュニティ持続再生」とし、地域コミュニティの継承性と変容性および創生の課題に視点をおく。また 20 世紀の居住地選定型住宅供給計画との相違、批評・評価を重視して、各地域の実情の報告を尊重した調査・検討・議論をし、新たな地域主権時代の住宅計画方法論構築を目標とする。2013 年度は、2012 年度のテーマとした「『借上げ社宅：みなし仮設』の現状と復興計画」での研究を踏まえて、「仮居住」について研究を進める。

■研究期間：2013 年 5 月 1 日 ～2014 年 3 月 30 日

■研究メンバー：東日本復興支援「地域コミュニティ住宅計画研究小委員会」2013

委員長 宇杉和夫 （西安交通大学客員教授）

幹事 薬袋奈美子（日本女子大学）

幹事 浦上健司（日本大学）

幹事 北野幸樹（日本大学）

委員 定行まり子（日本女子大学）

第3号議案資料

森反章夫	(東京経済大学)
小泉秀樹	(東京大学)
三橋伸夫	(宇都宮大学)
長谷川洋	(国土交通省国土技術政策研究所、住環境計画研究室)
米野史健	(建築研究所、住宅・都市研究グループ)
川崎直宏	(市浦ハウジング&プランニング)
稲葉 修	(三井ホーム)
川越 晃	(埼玉県都市整備部)
協力者 鈴木孝男	(宮城大学)

■研究事項（活動計画）

2013年度 公開研究会開催予定

第3回 テーマ：「仮居住の現状と復興計画：福島県」（仮題）

第4回 テーマ：「仮居住の現状と地域支援：首都圏」（仮題）

■結果のまとめの予定（情報発信）

上記 公開研究会を開催（一般公開）

第4号議案

2013年度公益社団法人都市住宅学会関東支部・収支予算書(案)

2013年4月1日から2014年3月31日まで

【収入の部】

(単位:円)

科 目	予算額	摘要
支部交付金	1,116,646	前年比 △4,797円
雑収入	50,000	
受取利息	690	
雑収入	49,310	
当期収入合計(A)	1,166,646	
前期繰越金	1,033,353	
収入合計(B)	2,199,999	

【支出の部】

(単位:円)

科 目	予算額	摘要
給与・賃金	500,000	1研究小委員会 120,000円×3
研究会費	360,000	
会議費	60,000	
通信・連絡費	20,000	
消耗品費	0	謝金規程見直しによる(例年300,000円)
印刷製本費	0	
交流研究会費	200,000	
シンポジウム費	200,000	
雑費	10,000	
当期支出合計(C)	1,350,000	
当期収支差額(A)－(C)	△ 183,354	
次期繰越金(B)－(C)	849,999	